

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価」

最終評価



大阪市立東中学校

令和 7 年 2 月

大阪市立東中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校区は、旧東区全域と広く、住居は主に校区東側に多い。また、校区には、タワーマンション等が建設され、校区 4 小学校はいずれも児童数増のため校舎増築を終え、本校も生徒数急増の時期を迎え、3 年に及ぶ工事を終えた新校舎の竣工を昨年度に迎えたところである。生徒は全体的に落ち着いた状況の中で学校生活を送っており、日頃より創意工夫して教育活動に取り組み、学力・体力の面では各種調査でしっかりとした結果を記録している。

しかし、近年、保護者の価値観が多様化するとともに、生活指導面では、より一層きめ細かな対応及び関係諸機関との連携が求められている。たとえば、本校に通学する生徒の家庭環境をみると、比較的裕福な家庭が多いが、中には基本的な生活習慣を身につけることができず、遅刻・欠席を繰り返すケースや宿題など課題の提出日を守れない生徒も見受けられる。また、中国を中心に、海外から日本語が全く分からない状態で編入学してくる生徒が、いずれの学年にも在籍しており、その流れは一年を通してみられる状況である。一方で、他者とのコミュニケーションに苦手意識を持つ生徒も散見されており、その中で休みがちになる生徒や HSC の生徒の増加が危惧されるところである。

いずれにしても、一人ひとりの生徒が自尊感情を高め、豊かな心の育成を通して、自分に自信と誇りをもち、進路決定に導くことが求められる。また、「HER (東エンパワメントルーム)」、「SAR (通級指導教室)」などを充実させることが求められる。そのためにも、スクールカウンセラー、こども相談センター、区役所子育て支援室などの関係諸機関とも連携を密にし、個に応じた指導に努めていく必要がある。

しかしながら、生徒指導主事を始め学級担任においては、日々の教育活動に忙殺され、時間的な余裕がなく根本的な解決には至っていないケースもあり、働き方改革と並行して課題解決に向けて進めなければならない状況にある。

【安全・安心な教育の推進】**旧 全市共通中期目標**

1. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 88%以上にする。
2. 令和 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和 3 年度より減少させる。
3. 令和 7 年度末の校内調査において、令和 3 年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

- 1 出席日数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む)
- 2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の中期目標

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を67%以上にする。
2. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。
3. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を43%以上にする。
4. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。
5. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。
6. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。
7. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を42%以上にする。
8. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を33%以上にする。また、令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を58%以上にする。
9. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を68%以上にする。
10. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を22%以上にする。
11. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を78%にする。
12. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じる事ができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を53%以上にする。
13. 令和7年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を63%以上にする。
14. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を63%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

旧 全市共通中期目標

1. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を53%以上にする。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.04ポイント向上させる。
3. 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を63%以上にする。
4. 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を56%以上にする。

学校園の中期目標

1. 令和7年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を49%以上にする。
2. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を73%以上にする。
3. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を28%以上にする。
4. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を53%以上にする。
5. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を73%以上にする。
6. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を58%以上にする。
7. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を68%以上にする。
8. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を68%以上にする。
9. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を72%以上にする。
10. 令和7年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を42%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

旧 全市共通中期目標

1. ICT の活用に関する目標を設定する。

- ・令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 73%以上にする。
- ・令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「インターネットや SNS を正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 72%以上にする。
- ・令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策として ICT を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 72%以上にする。
- ・令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 59%以上にする。

2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

- ・4～11 月の 8 か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準 2）を満たす教員の割合を 35%以上にする。
- ・教員の時間外勤務時間について、45h 未満…Lv0、45h～60h…Lv1、60h～80h…Lv2、80h～100h…Lv3、100h 以上…Lv4 と設定し、令和 7 年度の 4 月～11 月までの 8 か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv4 を 0 回にするとともに Lv3 と Lv4 の合計の割合を 18%以下にする

【その他】

学校園の中期目標

1. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 55%にする。
2. 令和 7 年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 45%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

1. 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
（安全・安心な教育環境の充実）
2. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答える生徒の割合を 86%以上にする。
3. 今年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）
 - 1 出席日数の増（学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む）
 - 2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 - 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。
4. 今年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にする。
5. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 65%以上にする。
6. 今年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にする。
7. 今年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 49%以上にする。
8. 今年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 64%以上にする。
9. 「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合(%)を 72%以上にする。【全国学力・学習状況調査】（豊かな心の育成）
10. 今年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 59%以上にする。
11. 今年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 40%以上にする。
12. 今年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 31%以上にする。また、今年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 57%以上にする。
13. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 66%以上にする。
14. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 20%以上にする。
15. 今年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 77%にする。
16. 今年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じる事ができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にする。

17. 今年度の学校生活アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61%以上にする。
18. 今年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

1. 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 77%以上にする。【本市調査（大阪市英語力調査）】（誰一人取り残さない学力の向上）
2. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における **体力合計点の対全国比を男女とも前年度より 0.01 ポイント向上させる。**【全国体力運動能力、運動習慣等調査】（健やかな体の育成）
3. 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 51%以上にする。
4. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
5. 今年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を 55%以上にする。
6. 今年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 48%以上にする。
7. 今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。
8. 今年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 27%以上にする。
9. 今年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にする。
10. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。
11. 今年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 57%以上にする。
12. 今年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 67%以上にする。
13. 今年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にする。
14. 今年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71%以上にする。
15. 今年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

1. 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超える。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（教育 DX の推進）
2. 教員の勤務時間の上限に関する基準（基準2）を満たす教職員の割合（%）を47%以上にする。
【本市独自調査】（人材の確保・育成としなやかな組織づくり）
3. ICT の活用に関する目標を設定する。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「インターネットや SNS を正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策として ICT を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を57%以上にする。
4. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
 - ・ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。
 - ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を30%以上にする。
 - ・令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。

【その他】

1. 今年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を52%以上にする。
2. 今年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を42%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

1. 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度8,53%より減少させることをめざし、8,41%という結果になった。
（安全・安心な教育環境の充実）
2. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答える生徒の割合を86%以上にすることをめざし、結果は85パーセントとなった。
3. 今年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させることをめざし、昨年度51.7%だったのに対し、28.2%にとどまった。
 - ※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
 - ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）
 - 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をする事による出席認定含む）

- 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながりようになった。または、継続してつながりようになった。
4. 今年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にすることをめざし、結果は 64%となった。
5. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 65%以上にすることをめざし、結果は 72%となった。
6. 今年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にすることをめざし、結果は 43%となった。
7. 今年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 49%以上にすることをめざし、結果は 47%となった。
8. 今年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 64%以上にすることをめざし、結果は 70%となった。
9. 「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合(%)を 72%以上にすることをめざし、結果は 67.2%となった。【全国学力・学習状況調査】(豊かな心の育成)
10. 今年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 59%以上にすることをめざし、結果は 60%となった。
11. 今年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 40%以上にすることをめざし、結果は 35%となった。
12. 今年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 31%以上にすることをめざし、結果は 26%となった。また、今年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 57%以上にすることをめざし、結果は 70%となることをめざし、結果は 70%となった。
13. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 66%以上にすることをめざし、結果は 58%となった。
14. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 20%以上にすることをめざし、結果は 21%となった。
15. 今年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 77%にすることをめざし、結果は 91%となった。
16. 今年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じる事ができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にすることをめざし、結果は 58%となった。
17. 今年度の学校生活アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61%以上にすることをめざし、結果は 59%と

なった。

18. 今年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にするをめざし、結果は 68%となった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

1. 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 77%以上にするをめざし、結果は 82.9%となった。【本市調査（大阪市英語力調査）】（誰一人取り残さない学力の向上）
2. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女とも前年度より 0.01 ポイント向上させることをめざし、結果は男女とも前年度より 0.01 ポイントの低下であった。【全国体力運動能力、運動習慣等調査】（健やかな体の育成）
3. 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 51%以上にするをめざし、結果は 53%となった。
4. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させることをめざし、2 年の数学が前年度と同様の結果となったが、それ以外は 0.01～0.03 ポイントの向上となった。
5. 今年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を 55%以上にするをめざし、結果は 50.5%となった。
6. 今年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 48%以上にするをめざし、結果は英数国平均で 55.3%となった。
7. 今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にするをめざし、結果は 70%となった。
8. 今年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 27%以上にするをめざし、結果は 42%となった。
9. 今年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にするをめざし、結果は 57%となった。
10. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にするをめざし、結果は 65%となった。
11. 今年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 57%以上にするをめざし、結果は 62%となった。
12. 今年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 67%以上にするをめざし、結果は 77%となった。
13. 今年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にするをめざし、結果は 71%となった。
14. 今年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけてい

る」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71%以上にするをめざし、結果は 71%となった。

15. 今年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にするをめざし、結果は 49%となった。

【学びを支える教育環境の充実】

1. 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えることを目指したが、12 月末時点で 28%であった。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（教育 DX の推進）
2. 教員の勤務時間の上限に関する基準（基準 2）を満たす教職員の割合（%）を 47%以上にするをめざし、2 月末で 53.06%となった。【本市独自調査】（人材の確保・育成としなやかな組織づくり）
3. ICT の活用に関する目標を設定する。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にするをめざし、結果が 65%となった。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「インターネットや SNS を正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71%以上にするをめざし、結果は 71%となった。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策として ICT を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 70%以上にするをめざし、結果は 65%となった。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 57%以上にするをめざし、結果が 58%となった。
4. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
 - ・ゆとりの日を月 1 回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。
 - ・4～11 月の 8 か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準 2）を満たす教員の割合を 30%以上にするをめざし、2 月現在で 53.06%の教員が達成できた。
 - ・令和 7 年度の 4 月～11 月までの 8 か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv4（月 100 時間超）の割合を前年度より半減させることをめざし、昨年度ののべ 8 人から 3 人に達成することができた。また Lv3（月 80 時間超）以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やすことをめざし、Lv4 が半減しただけでなく、Lv3 の教職員も昨年度の 49 人から 44 人へと減少させることができた。

【その他】

1. 今年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 52%以上にするをめざし、結果は 63%となった。
2. 今年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 42%以上にするをめざし、結果は 63%となった。

大阪市立東中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>1. 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 （安全・安心な教育環境の充実）</p> <p>2. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答える生徒の割合を86%以上にする。</p> <p>3. 今年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）</p> <p>1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をするることによる出席認定含む）</p> <p>2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。</p> <p>または、継続してつながるようになった。</p> <p>4. 今年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする。</p> <p>5. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。</p> <p>6. 今年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする。</p> <p>7. 今年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を49%以上にする。</p> <p>8. 今年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。</p> <p>9. 「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合(%)を72%以上にする。【全国学力・学習状況調査】（豊かな心の育成）</p> <p>10. 今年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする。</p> <p>11. 今年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする。</p> <p>12. 今年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする。また、今年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を57%以上にする。</p>	B

<p>13. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 66%以上にする。</p> <p>14. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 20%以上にする。</p> <p>15. 今年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 77%にする。</p> <p>16. 今年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にする。</p> <p>17. 今年度の学校生活アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61%以上にする。</p> <p>18. 今年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にする。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学-7）</p> <p>教科授業だけでなく様々な活動の中で、コミュニケーション活動を取り入れた内容を実施する。また、読書活動を充実させるため、朝読書の習慣化、図書室を利用した授業を実施する。言語力の育成に向け、表現活動や「学び合い」の機会を増やす。</p> <hr/> <p>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を全体の 40%以上にする。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表したりする機会がよくある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等（28%）以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 35%で、目標を 5 ポイント下回った。 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表したりする機会がよくある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 36%で、目標を 8 ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年での朝読書の実施、図書室の利用の推進等を行った。また、ビブリオバトルを通じて、本への興味をひくことができた。 各教科の中で、意見をまとめたり、発表したりする授業を展開できた。 総合的読解力の取り組みで、発表の機会を与えることができた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室の利用、学級文庫の取り組みについては、図書委員会を中心に活発に進められたことを来年度も継続する。 日頃の授業から言語活動を取り入れた授業展開ができるよう意識する。 総合的読解力の取り組みを通して、班活動や発表の機会を与えるようにする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学-12）</p> <p>体験的な学習や表現・発表する取り組みを設定し、また、実験・実習を積極的に取り入れるなど生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を実施する。</p> <hr/> <p>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にする。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等（54%）以上にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「鑑賞行事や体験学習を通して、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 58%で、目標を 6 ポイント上回った。 	

<ul style="list-style-type: none">・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は57%で、目標を3ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・体験学習は、1年生は一泊移住、2年生は職場体験、3年生は修学旅行・茶道体験・華道体験の中で行った。全学年、文化発表会で吹奏楽部の演奏を鑑賞した。・実験、観察、実習などの授業においては、各教科の中で行った。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「鑑賞行事や体験学習を通して、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の前期のアンケートでは目標値を下回っていたが、後期のアンケートでは上回った。文化発表会などの後期の行事で結果が上がったと考えられるため、来年度も継続できるものは続けていく。・実験、観察、実習など授業は、教科によって実施に差があると考えられるが、全教科の中で意識するようにする。	
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】(学-10)</p> <p>地域の施設及び人材活用を積極的に行い、それらを取り入れた学習活動を充実する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・学校元気アップ地域本部事業において、今年度はPTAや地域・学生等のボランティアの数を20名以上集める。・今年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を21%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学校元気アップ地域本部事業において、今年度のPTAや地域・学生等のボランティアの数は、20名集まった時期もあったが、現在は18名である。・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は21%で、目標値に達した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・図書館開館やテスト前の放課後学習会の実施を例年通り進めている。12月末現在の図書室利用者の延べ人数は昨年度よりも2,049名ほど増加し、6,065名となった。・元気アップの皆様が、毎月「学校元気アップからのお知らせ」のプリントを配付し、図書館開館日や放課後学習会の実施日などを案内して、参加人数が増えるよう取り組みをしてくださいました。また、大阪市教育フォーラムで本校の取り組みを発表いただきました。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・元気アップの取り組みは充実しており、生徒たちも参加しているにも関わらず、アンケート結果については、目標値には達したものの、最も肯定的な回答の割合は21%にとどまった。生徒たちに「元気アップの取り組みに参加している」という認識を高めたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（生活指導部）		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（市－2・3）</div> <div><ul style="list-style-type: none">・主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し具体的な対応策のもとに学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がける。また「不登校対策委員会」をさらに充実させる。・学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換を充実させる。生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行する。・課題の解決に向けて、関係諸機関とも積極的に連携をする。・諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識をする。</div>		B
<div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">・日々の学年打ち合わせ、または主任会、生活指導部会において、不登校生徒の状況について報告し具体的な支援、対応策を明確に示し対応にあたる。・今年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を78%以上にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を69%以上にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。・今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が74%（前期70%、目標78%以上）だった。・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が67%（前期57%、目標69%以上）だった。・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が63%（前期63%、目標62%以上）だった。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し、具体的な対応策のもとに、学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がけた。また「不登校対策委員会」をさらに充実させていきたい。・学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換の充実を行った。生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行した。・課題の解決に向けて、子ども相談センターやこどもサポートネット、その他関係諸機関とも積極的に連携を行った。・諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識した。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・前期アンケートでは、1つ目と2つ目の項目が大幅に目標値を下回っていたが、中間評価でCをつけ、危機感を持って対応した結果、目標値に近づけることができた。ただし、目標値を下回っているため、来年度に向けて改善点を見つけ、検証していきたい。</div>		

<ul style="list-style-type: none">・不登校生への対応については、学校として体制の充実が実現してきているが、不登校生自体は減少した訳ではないため、さらなる検証が必要である。・生徒が充実した学校生活を過ごすため、生徒会活動や部活動を通して、自立・自己実現できるよう促していきたい。	
<div>取組内容②【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】(学－2)</div> <ul style="list-style-type: none">・学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心がけ、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。	C
<div>指標</div> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 77%以上にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 77%以上にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 65%以上にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 67%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<div>【年度目標】について</div> <ul style="list-style-type: none">・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が 64%（前期 68%、目標 77%以上）だった。・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が 79%（前期 68%、目標 77%以上）だった。・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合が 67%（前期 64%、目標 65%以上）だった。・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合が 72%（前期 69%、目標 67%以上）だった。 <div>【取組内容】について</div> <ul style="list-style-type: none">・学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心がけ、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組んでいるが、共通理解の項目の割合が低いことが大きな課題である。	
次年度への改善点	
<div>【目標設定】について</div> <ul style="list-style-type: none">・「教職員は共通理解を図り、生徒にきまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている」の項目に関しては、目標を 13%も下回っている。部会や職員会議、学年会などを通して、共通理解を図ることが喫緊の課題である。・生徒の規範意識の向上に関しては、目標を 5 ポイント上回り、変化する社会に対して、柔軟な校則の運用に努めることができている。今後も学校として一丸となって指導できる体制を整えていきたい。	
<div>取組内容③【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現 】(市－1 学－5)</div> <ul style="list-style-type: none">・日常の生徒観察と定期的の実態把握アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。・アンケートを形骸化させないことを心がけ、アンケート結果は全校集会等で生徒に公表し、生徒が相談しやすい環境の構築を図る。・道徳教育を通じて内面的な指導を積極的に行う。	B

指標	<ul style="list-style-type: none">・教育相談を年2回以上実施する。・東中学校「いじめアンケート」に基づく道徳教育を実施する。・今年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を86%にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。・今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。・今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について		
<ul style="list-style-type: none">・教育相談を予定通り行うことができた。・1年生を対象に東中学校独自のアンケートを実施し、結果を返すことで「どんな場合であってもいじめは許されない」という意識を高めることができた。・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は85%（目標86%以上）であった。2年生は前期より上回っているが、1・3年生は前期より低くなっている。特に3年生が前期91%から後期85%と6ポイントも下がっており、受験を迎え人のことを考える余裕がなくなっているように思われる。・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は70%（目標71%以上）であった。目標を下回っているが、前期の68%よりも増えている。これは、道徳などを通じて継続的に指導しているためと思われる。・令和6年度に、学校で認知したいじめは4件で、うち3件が解消し、1件が経過観察中である。・令和6年度に、認知した暴力行為は0件である。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
<ul style="list-style-type: none">・いじめの認知件数は昨年度に比べ、減少している。早期発見もできているがインターネットを使った事案は見えないものが多いので、実数は多いと考えられるので、引き続き啓発していかなければならない。特に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という項目が前期に比べ後期に下がる傾向にある。1学期の「いじめいのちについて考える日」で考えたことが持続していないので、各学期ごとのアンケートの際に改めて啓発する必要がある。		
取組内容④【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（学-14）		A
<ul style="list-style-type: none">・所轄警察署より交通安全教室を年1回以上実施する。・全国的に年2回実施される「春・秋の交通安全週間」の前後、または各学期末に全校集会等で交通安全についての講話を行い、交通安全や交通ルールを順守する態度を養う。		
指標		
<ul style="list-style-type: none">・今年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
【取組内容】について		
<ul style="list-style-type: none">・本年度も1学期終業式に東警察交通課より、交通安全の講話をしていただいた。・全校集会で下校の時の通行マナーの啓発を行った。・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は68%（目標64%以上）であった。		

次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通ルールを守れる生徒も増えてきているが、一部の生徒の登下校時のマナーを地域の人から指摘を受けることが多いので引き続き、全校集会等で講話し意識を高めていきたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（東エンパワメントルーム）		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向 1 安全で安心な教育環境の実現】（市－2・3）</div> <div><ul style="list-style-type: none">・主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し具体的な対応策のもとに学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がける。また「不登校対策委員会」をさらに充実させる。（再掲）・学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換を充実させる。生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行する。（再掲）・課題の解決に向けて、関係諸機関とも積極的に連携をする。（再掲）・諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識をする。（再掲）</div>		B
<div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">・日々の学年打ち合わせ、または主任会、生活指導部会において、不登校生徒の状況について報告し具体的な支援、対応策を明確に示し対応にあたる。（再掲）・今年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 55%以上にする。（再掲）・今年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 49%以上にする。（再掲）・今年度の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にする。（再掲）・今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。（再掲）</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・不登校生徒の状況について、学年会・主任会・部会・職員会議などの打ち合わせにおいて情報交換し個々の事案に対応した。・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 74%。・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して、組織的に指導に当たれるよう、体制の充実に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 6 7 %で目標を 1 8 ポイント上回った。・令和 6 年度後期の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 63%で目標を 1 ポイント上回っている。・今年度の新たに不登校になる生徒の割合については結果が届き次第、検証と比較を行う。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・不登校等の生徒の居場所としての機能を発揮している。「登校できたこと」を認め、生徒はリラックスした雰囲気の中で担当者との会話や自習を行い学校生活への適応をめざす。</div>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（健康教育部）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（学-3） 防災に関する知識を深め、予防意識を高める。		B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を33%以上にする。 ・避難訓練を年2回実施する。全学年防災に関する資料等を使い、災害に対して備える意識を生徒に持たせる。 ・地震に伴う避難訓練では点呼終了までにかかる時間をグラウンドへの避難を6分5秒以内におさめる。 ・火災に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を4分50秒以内におさめる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・生徒アンケートの結果は、昨年度より+10ポイントの43%だった。 【取組内容】について ・地震に伴う避難訓練において、グラウンドへの避難は5分37秒だった。 ・2回目の火災に伴う避難訓練は、新校舎からの避難も並行して行い、5分32秒だった。目標より下回る結果となった。 ・今回初めて生徒に周知させて実施した。消防署の立会いはなく1年生のみ消火器の使い方を実際に行い2、3年生は、教室で冊子を使つての学習を行った。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・2回目の避難訓練を事前に生徒へ周知させるのか、また、2、3年は消火器の使い方の動画のみで良いのか検討していきたい。また、できることなら消防署の立会いのもと、慌てず安全に避難できるように実施していきたい。		
取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】（学-1） 日常の清掃活動を充実させ、自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。		A
指標 ・月1回美化点検を行い、取り組んだ結果を美化委員に確認させる。 ・学期に1回清掃用具点検活動を美化委員中心に行う。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「美化活動(清掃活動)に、積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を53%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「清掃活動は行き届いている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を、52%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・生徒アンケートの結果は昨年度より+6ポイントの58%で、教職員のアンケート結果は、昨年度と同じく51%だった。 【取組内容】について ・美化委員会では、例年通り美化点検を毎月行った。破損点検も、普通教室と特別清掃区域も取り組んだ。さらに、ロッカー点検も各クラスで定期的に行い、教室の美化に努めた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・生徒に対して清掃活動の大切さを伝え、美化活動を積極的に進めていく。 ・新校舎の清掃場所と教員の清掃分担割り当てを工夫していきたい。		

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-13)	A
性教育の系統立てた指導を実施する。	
指標	
・性について考え、自己の生き方を考える意識の向上をめざすために各学年 3 ～ 4 時間の授業を実施する。	
・取組後の事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 54%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・生徒アンケートの結果は、昨年度より+6 ポイントの 59%で、目標を達成できた。	
【取組内容】について	
・1 年生は、講師の方に来ていただき、ティーンズヘルスセミナーを 1 月に実施した。	
・2 年生では、学年自作のアンケートから始めて、交際についてのトラブル、性被害に遭わないための内容で 10 月に実施した。	
・3 年生では、講師の方に来ていただき、6 月に性教育を実施した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・単発での指導ではなく、日常的に生徒に伝えるなど年間通しての指導をしていきたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（人権道徳委員会）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学―1 学―5） 道徳の年間指導計画を作成し、授業時数の確保に努める。また、各学年で道徳の実践記録を作成し、生徒の課題に応じて適切に授業内容を充実させる。		B
指標 ・道徳の授業時数が、年間で 35 時間を越えるように計画し、実践する。 ・各学年で道徳教科書の読み物教材を漏れなく行い、ワークシート・道徳ノートを使用し、適切な文章表記による評価を行う。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 60%以上に する。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」 に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 69%以上に する。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に 対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上に する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・今年度の学校生活アンケートにおける「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行って いる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 72%で目標を 12 ポイント 上回った。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」に 対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 72%で目標を 3 ポイント上回った。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に 対して最 も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 64%で目標を 2 ポイント下回った。		
【取組内容】について ・オンライン学習の試行などの機会に、道徳の授業を行うなどして年度当初からは変更点もある が、各学年道徳の授業時数が年間 35 時間を超えるように修正・計画している。各学年様々な取り 組みに応じて道徳の授業を展開し、生徒の課題に応じた授業を行っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・道徳の授業を通して命の大切さや社会のルールについて学び、学んだことから実際の学校生活にお いてもより良い人間関係が築ける生徒が増えるように、次年度も引き続き道徳の授業を、年間指導 計画に基づき継続的に行っていきたい。		
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学―1 学―5） 豊かな人権感覚の育成をめざし、人権学習の指導計画を作成する。前後期に集中実践を行 い、授業展開を工夫して内容の充実を図る。		B
指標 ・人権学習の年間指導計画を作成し、前後期に各学年で 2 回集中実践を行う。 ・体験学習や外部講師の招聘、視聴覚教材の活用等を行う。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会の ルールについて学ぶ教育活動を推進している」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答 える教職員の割合を 67%以上に する。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に 対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年同等以上に する。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 65% で目標を 2 ポイント下回った。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 70% で昨年度同等であった。 <p>【取組内容】について</p> <p>前期の集中実践として、1、2 年生では視聴覚教材を用いて、3 年生では修学旅行での取り組みを通して平和学習を行った。後期の集中実践についても各学年の生徒の実態に応じて授業展開を工夫して行った。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、体験学習や外部講師の招聘、視聴覚教材の活用などを通して、人権教育の推進に努め、年 2 回の集中実践に向けて丁寧に計画し、生徒が人権の大切さについて学べる環境を作れるように取り組んでいく。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（特別支援教育委員会）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学－11） 「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、保護者との面談を行い、個々の障がいの状態等を踏まえたうえで計画を立てる。また、合理的配慮の観点から、特別支援学級に在籍する生徒の困っていることや、求めていることを知り、支援する。		B
指標 ・学期に 1 回、保護者及び関係諸機関等と連携し、必要に応じて加筆・修正する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について ・「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、小学校からの引継ぎや中学校生活の様子をもとに、計画を立て、1 学期、2 学期末の懇談時に保護者へ確認をとり、修正点があれば、随時修正した。計画に基づき、支援を行っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・家庭と学校が協力して生徒の支援を進めるため、今後も日々の学校生活や学校行事での生徒の様子を保護者に伝えていく。また、生徒本人や保護者の思いや願いも「個別の教育支援計画」に反映できるように、家庭との連携をとる。特別支援学級担任や通級指導担当、学級担任、家庭とで連携をとりながら「個別の教育支援計画」の作成、支援を行っていく。		
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学－11） 「個別の指導計画」について、学期ごとに目標を定め、生徒の自立に向けて支援する。		B
指標 ・学期に 1 回、保護者と目標の達成状況を共有する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について ・学期ごとに短期目標の達成状況を本人、保護者と確認した。達成状況をもとに短期目標を立て、支援することができた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・目標の達成状況や本人、保護者との話し合いを「個別の指導計画」に反映させ、今後の支援に役立てていく。		
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学－11） 特別支援教育委員会において、通常学級担任・特別支援学級担任・通級による指導の担当者や教務主任・生徒指導主事も含めて生徒の情報を共有する。		B
指標 ・2 か月に 1 回、特別支援教育委員会を実施し、生徒の状況について情報を交換する。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 76%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・令和 6 年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は前期 81%、後期 91%であった。		
【取組内容】について ・日頃より通常学級担任との情報共有に努めている。また、2 か月に 1 回の特別支援教育委員会や学年会などでも、情報共有に努めている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・今後も特別支援学級在籍生徒が、学級や学年で通常学級の一員として、周りの生徒の理解を得ながら充実した学校生活を送れるように支援していく。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（通級による指導）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】（市－2・3） 生徒一人一人に寄り添った不登校要因への対応及びICTを活用した学習機会の確保。</p> <hr/> <p>指標 1. 通級による指導を受けている不登校生徒の不登校の状態を改善する。 ※ICTの活用により、本人・保護者と学校がつながる回数を増やす。 2. 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標1について、目標を達成した。 ・指標2について、不登校生徒の在籍比率は昨年度とほぼ同じであった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在通級による指導を利用している不登校の生徒（1名）に対し、ICT(Teams)を使ってリモートでの自立活動の授業を行った。その取り組み自体は10月で終了したが、当該の生徒がICTを活用して学校とつながる回数と登校する回数との合計は106回(昨年度は35回)となった。 ・今年度2学期末の不登校生徒在籍率は7.90%であった(昨年度末は7.99%)。昨年度末から大きく改善したわけではないが、大阪市内中学校全体の割合が毎年1%ずつ増加している近年の状況(R2=6.48%, R3=7.59%, R4=8.62%, R5=9.61)と比較すると、昨年度の状況を維持していることは本校の不登校対策は一定の効果を上げていると考えられる。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部の不登校に対する方針に従い、通級としてできることに取り組む。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 発達障がい起因する「登校渋り」が見られる生徒やその保護者、学級担任に対する通級による指導の周知、啓発。</p> <hr/> <p>指標 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の調査の中でその年度（1～2学期）に新たに不登校になる生徒の全校生徒に対する割合は3.62%であった(昨年度3.37%)。不登校生徒在籍率と同様にその割合は昨年度とほぼ変わらなかった(人数換算で2名程度増加した)。 <p>【取組内容】について</p> <p>現在、通級による指導を受けている生徒の中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生で遅刻や欠席が多く不登校に陥ることが心配された生徒が不登校に陥ることはなかった。 ・2年生の生徒1名の欠席が非常に多くなっているが、欠席の理由が「体調」、「家の都合」であるため、不登校とはカウントされていない(長欠とカウント)。しかし、本人が登校に意欲的であるわけではないこと、小学校時代も(コロナ禍の影響もあったが)欠席が多かったこと等を踏まえ、今後も長欠が続く可能性があることを見据えて対応する。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校で他校のように不登校生在籍率が増加していない理由は各学級によるきめ細かな対応とともにHER等の受け入れ態勢が充実していることがある。通級指導教室においても学校生活に生きづらさを感じている生徒が不登校に陥らないような学びの場としての機能を高めていく。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（進路）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 8 生涯学習の支援】（学-6）</p> <p>3年間を見通した指導計画を立て、生徒自らが個性を伸ばし、自己実現をめざしてその生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に進路選択ができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおける「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にしている、主体的に考えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にしている、主体的に考えている」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度と同じ57%であり、目標値を少し下回った。しかしながら、3年生だけに限れば70%に達しているため、将来の生き方を真剣に考えるべき立場の生徒は、概ね考えることができたようである。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度もさまざまな感染症等の影響を受けることもなく、今のところ生徒への進路情報の提供は、ある程度いきわたっているように思われる。進路通信や学年集会での呼び掛けだけでなく、普段の授業中においても、機会があれば情報提供をするよう心掛けてきた。また、進路に関する話をするときには、『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ということをもとに行うようにしてきた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生では「キャリア教育」、2年生では「職場体験」の取組だけで進路指導を終えてしまうのではなく、普段からの呼び掛けや啓発活動を大切にして、継続的に『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ことのできる進路指導を行っていきたい。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 8 生涯学習の支援】（学-4）</p> <p>進路についての理解を深めさせるために、体験学習・学校説明会への参加案内発行や進路説明会開催などによる進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおける「提供された進路の情報をきちんと理解できている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を49%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を49%以上にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より2ポイント増加して47%であり、目標値を少し下回ったが、3年生だけに限れば59%に達した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、対話制限が緩む中、教職員の普段からの積極的な丁寧で粘り強い声掛けが、大きな評価を得ているものと思われる。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「提供された進路の情報をきちんと理解できている」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より5ポイント増加して50%となり、目標値を上回った。特に、3年生だけに限れば68%に達しており、目標値を大きく上回った。進路通信の発行や学年集会での呼び掛けによる情報提供をこまめに行ってきた。また、体験学習や学校説明会への参加については、大量に送られてくる案内のほとんどを生徒に提示して、参加を呼び掛け、それを促してきた。1・2年生が参加しても良いものについても、1・2年生に呼び掛けてきた。 	

次年度への改善点	
【目標設定】について	
・進路説明会等を活用して、進路情報の収集及び整理をさらに図っていきたい。そして、進路指導委員会を中心に情報の共有と組織的な解析を進めながら、全教職員が共通理解を図り、生徒・保護者に対してきめ細やかな進路指導を行えるようにしていきたい。特に、生徒一人ひとりに対して、普段からの細やかな声掛けや丁寧な説明を心掛けたい。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-6)	A
1 年生での「職業講話」、2 年生での「職場体験」、3 年生での「プレハイスクールセミナー(出前授業)」という系統的なキャリア教育を通じて、将来の進路や生き方について考えさせ、社会の一員としての在り方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成する。	
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 59%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は、昨年度より 3 ポイント増加して 60%であり、目標値を上回った。特に、3 年生だけに限れば 71%に達しており、目標値を大きく上回った。3 年生に関しては、さまざまな感染症の影響等もなく、早くからオープンスクールや入試説明会への参加が見られたり、2 学期に入ってから希望の進路先への質問をしてきたり、少しずつ進路決定への興味関心が高まっていき、3 学期を迎えることができた。	
【取組内容】について	
・3 年生については、7 月に「プレハイスクールセミナー(出前授業)」を無事行うことができ、将来の進路や生き方について考えるきっかけとすることができた。2 年生は 11 月に「職場体験」を実施した。1 年生は 3 月に「キャリア教育」の一環として、「S P トランプ」の取組を実施する予定である。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・1 年生の割合については、学年での進路の取組(「S P トランプ」)がまだ行われていないが、50%台後半に達している。将来の進路や生き方について、より興味を持たせることができるようなものにしていきたい。2 年生については、「職場体験」が将来の進路や生き方について興味をもつきっかけとなり、前期を大きく上回って 50%台前半に達した。3 年生に向けて、その興味・関心をさらに高められるよう、声掛けをしていきたい。3 年生については、これから最終局面を迎える進路相談・進路懇談について、学年間の連携を密にし、その中身を充実させることで、将来の進路や生き方を十分に考えさせていきたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（第1学年）		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学-2）</div> <div>集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。（素直に）</div> <div>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にする。</div> <div>・今年度の学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にする。</div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 71%で目標を 9 ポイント上回った。</div> <div>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 73%で目標を 11 ポイント上回った。</div> <div>【取組内容】について</div> <div>・学校生活を通して、基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成した。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div>・来年度は、公共交通機関を使った班活動や職業体験を実施する予定である。引き続き学校生活やそれらの取り組みを通して、生活習慣の確立や社会性の基礎を育みたい。</div>		
<div>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】（学-2・6）</div> <div>一人ひとりが目標を持ち、すべての授業・班活動・係活動・委員会活動・学年集会を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。（ひたむきに）</div> <div>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「学校行事や体験活動は積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 53%以上にする。</div> <div>・今年度の学校生活アンケートにおいて「生徒会活動や委員会活動、学級の係活動に積極的に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 47%以上にする。</div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校行事や体験活動は積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 67%で目標を 14 ポイント上回った。</div> <div>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「生徒会活動や委員会活動、学級の係活動に積極的に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 59%で目標を 12 ポイント上回った。</div> <div>【取組内容】について</div> <div>・班活動、ピアサポート学習、一泊移住（チームビルディング）を実施した。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div>・来年度は、総合的な学習の時間、道徳、教材等関連づけて指導していききたい。より深い気づきや学びにつながるように系統立てて指導したい。</div>		

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(市-1 学-5) 中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。(思いやりをもって)	B
指標 ・今年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和 6 年度の後期校内調査では、いじめ事象は 2 件あった。この 2 件については 100%解消することができた。 ・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 68%で目標を 7 ポイント上回った。	
【取組内容】について ・班活動、ピアサポート学習、一泊移住（チームビルディング）を実施した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・より良い人間関係の構築のために、引き続き班活動、ピアサポート学習やチームビルディングを実施していきたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（第2学年）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2) 集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。		B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 65%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 58%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は73%で目標を8ポイント上回った。		
【取組内容】について ・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は60%で目標を2ポイント上回った。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・2年生後期に入り学校の中心学年へ向けて自覚と責任を感じ、行動に移す生徒が増えてきているが、今までと同じままで何の危機感も持たない生徒もいる。班活動などの取り組みや行事を経験させ、注意や呼びかけが個々ででき、自らで何事も解決できる集団育成が必要である。		

<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】(市-1 学-5)</p> <p>中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。</p>	
<p>指標 ・今年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 53%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>・令和 6 年度の校内調査において、認知したいじめは 1 件であった。発覚次第指導・家庭連絡等を行い、現在も継続指導中である。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 56%で目標を 3 ポイント上回った。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>・道徳科授業や学年集会などを通して、周囲のことを考えながら行動ができる心を育んできた。また、学年目標である「七転八起」のように、生徒それぞれが何度失敗してもくじけず立ち上がって努力できる、何度も挑戦を繰り返すことができる最上学年となるよう、今後の行事や日常生活などで引き続き育んでいきたい。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】(学-2・6)</p> <p>一人ひとりが目標を持ち、すべての授業・班活動・係活動・委員会活動・学年集会を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。</p>	
<p>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 47%以上にする。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶように努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 31%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自ら学ぶように努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 32%で目標を 1 ポイント上回った。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 51%で目標を 4 ポイント上回った。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>・11 月に実施した職場体験学習や今後予定している進路学習などの取り組みをとおして、将来のことを考える機会を提供し、自ら学ぶ意欲を向上させ、進路に打ち勝つ力を身につけさせたい。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（第3学年）		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】（市-1 学-5）</div> <div>道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。</div>		A
<div>指標 ・今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</div> <div>・今年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を73%以上にする。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div>・令和6年度後期の校内調査において、認知したいじめはなかった。</div> <div>【取組内容】について</div> <div>・令和6年度後期学校生活アンケートにおいて、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は75%で目標を2ポイント上回った。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div>・今後もいじめのない学年づくりをしていきたい。前期よりも少し下がっているので、卒業に向け再度考える時間をとっていきたい。</div>		
<div>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】（学-2）</div> <div>ルールや時間を守り、元気よくあいさつのできる前向きな生活態度を持つ集団を育成する。</div>		B
<div>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。</div> <div>・今年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div>・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は73%で目標を2ポイント上回った。</div> <div>【取組内容】について</div> <div>・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は67%で目標を2ポイント上回った。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div>・2学期末に増加した門が閉まってからの登校も、落ち着いてきている。また授業に向けての意識も受験を控えて高まっている。公立一般選抜の受験まで学年全体で協力し合えるよう声掛けをしていく。</div>		
<div>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】（学-2）</div> <div>班活動・委員会活動などを通じ、よりよい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育成する。</div>		B
<div>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を72%以上にする。</div> <div>・今年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を45%以上にする。</div>		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は67%で目標を5ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は59%で目標を14ポイント上回った。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの行事に積極的かつ協力しながら参加してきた。その中で自分の役割を意識して行動できた結果であると考え。一方、より良い人間関係を築くことに対し前期よりも最も肯定的な意見の割合が下がっている。37期生が一致団結して卒業を迎えるよう再度指導していく。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（校長経営戦略支援予算基本）	
取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学－1） 1 年の一泊移住、2 年の校外学習、3 年の修学旅行における活動を通じて、互いに協力し、支えあい、認め合う姿勢を養い、安全・安心な学校生活を築く。	進捗状況
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 67%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【達成状況】について ・学校生活アンケート結果より 目標 6 7 R6 後 6 4 R6 前 6 8 R5 後 6 6 R5 前 6 5 前期より下がり、目標値を超えることができなかった。数値自体は大きく下がらなかったものの、昨年度より上昇傾向だったところが、いったん落ち着いた状況に見える。肯定的回答全体でみると、前期が 95%だったのに対し、94%であった。	
【結果と分析】について ・前期は宿泊行事による、また後期は体育大会や合唱コンクール、球技大会等による集団づくりの取組があった。いずれの行事においても、子どもたちも教職員も力を尽くし、東中の伝統を受け継いで行事を成功させてきている。目標達成に向けては、教職員が行事の成功を目的というよりも手段ととらえ、活動の中で子どもたちを成長させることを目的と考えた取組を進めていきたい。	
次年度への改善点	
・学校行事の成功をめざした取組の中で、班活動や、委員会活動を通して、子どもたちに主体的に活動する機会を設ける。また、教職員は生徒たちの活動を支援する体制をとり、生徒が考え、互いに意見を交わし、答えを探していく探求の姿勢を伸長していく。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学－12） 文化発表会や日々の授業において、鑑賞や体験学習などの中で、歴史文化や伝統ある文物に触れ、表現の豊かさや美しさ、すばらしさを感じとることで感性や情操を高める。	
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習（行事や授業など）を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることはできた」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を 53%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【達成状況】について ・学校生活アンケート結果より 目標 5 3 R6 後 5 8 R6 前 4 9 R5 後 5 2 R5 前 4 8 前期および昨年度後期と比べて改善傾向が続いており、目標を無事達成することができた。	
【結果と分析】について ・後期に注力して取り組んだ行事として、文化発表会や3年生の華道体験、茶道体験がある。一方、音楽や美術の授業で鑑賞の授業を取り入れていることや、年間を通して美術や書道の作品を校舎内に掲示して生徒たちに芸術鑑賞の機会が常に与えていること、そして元気アップボランティアによる読み聞かせも学期に1度ずつ実施することなど、生徒たちにとって文化的な体験が日常の手に届くところに用意されていることがこの結果につながったと考えている。	
次年度への改善点	
・年間を通して、生徒たちに文化的な体験を設けていくことは、今後の生徒たちの情操を育むにあたり、欠かせないことである。引き続き、各教科や元気アップボランティア、PTA 等と連携しながら環境整備を行う。また、華道体験や茶道体験といった、本校にしかない文化・芸術体験についても特定の学年だけに偏ることなく、広く体験の機会を用意していきたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（管理職）	
取組内容①【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の育成】（学－8） 各種行事や PTA 活動等を通じて開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が相互に協力する体制を構築する。	進 捗 状 況
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 29%以上にする。また、今年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 65%以上にする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【達成状況】について ・学校生活アンケートより 保護者 目標 29 R6 後 26 R6 前 27 R5 後 28 R5 前 22 教職員 目標 65 R6 後 70 R6 前 53 R5 後 64 R5 前 50 保護者のアンケート結果は横ばいで伸ばすことができず、目標を達成できなかった。一方で、教職員の結果については、前期の結果や昨年度の結果から改善が見られ、目標を上回ることができた。肯定的回答全体を見ると、保護者の回答は前期が 85%であるのに対し、後期は 88%であり、改善している。教職員の回答は前期 93%、後期 91%であり、高い水準を保つことができた。	
【結果と分析】について ・年間を通して保護者が来校する機会を定期的に設けることはできているが、その機会は平日の昼間 が中心であり、フルタイム勤務の保護者にとって、参加がかなわないことも多い。一方で教職員は、 参観や懇談はもちろん、PTA 行事も含め、保護者が来校する機会をとらえて諸行事に参加しており、 日頃の諸業務がありながらも開かれた学校づくりに注力している。こうした姿勢が結果につなが ったといえる。	
次年度への改善点	
・保護者の来校機会は今後も確保しながら、その実施の日時について、弾力的に運用を図ることを検 討する。行事参加に向け、保護者が仕事を半日休むだけで参加ができる機会を増やしていくこと が、今後の保護者の参加意欲を高めると期待する。	

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を77%以上にする。【本市調査（大阪市英語力調査）】（誰一人取り残さない学力の向上） 2. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女とも前年度より0.01ポイント向上させる。【全国体力運動能力、運動習慣等調査】（健やかな体の育成） 3. 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする。 4. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 5. 今年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を55%以上にする。 6. 今年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする。 7. 今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 8. 今年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を27%以上にする。 9. 今年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を52%以上にする。 10. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 11. 今年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を57%以上にする。 12. 今年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を67%以上にする。 	B

- | | |
|---|--|
| <p>13. 今年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にする。</p> <p>14. 今年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71%以上にする。</p> <p>15. 今年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にする。</p> | |
|---|--|

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1 学-2）</p> <p>言語活動の取り組みをすべての教科で取り入れ、思考力・判断力・表現力・読解力の育成を図り、学力向上に生かす。</p> <hr/> <p>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 51%以上にする。</p> <p>・言語活動を取り入れた授業を、すべての教科で、年 1 回の公開授業において行う。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 70%で、目標を 1 ポイント下回った。しかし、昨年度は 59%だったため、昨年度からは 11 ポイント上がった。 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 53%で、目標を 2 ポイント上回った。 言語活動を取り入れた授業の公開は、9 月 24 日から 10 月 25 日で実施した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業期間を中心に、各教科で言語活動を取り入れた授業展開ができた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業期間前の前期のアンケートでは、教職員も生徒も結果が芳しくなかったため、公開授業のみならず、日頃の授業から言語活動を取り入れた授業づくりに取り組む。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2・3）</p> <p>授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を作成、提供し、自主学習の習慣を定着させる。自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・家庭学習教材を授業ごとに提供する。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を昨年度と同等（38%）以上にする。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や家庭学習の習慣を身につけさせるために、保護者に対して様々な働きかけをしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等（44%）以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 38%で、目標値に達した。 令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶ方法や家庭学習の習慣を身につけさせるために、保護者に対して様々な働きかけをしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 42%で、目標を 2 ポイント下回った。 	

【取組内容】について	
・家庭学習教材については、副教材の活用や、自作プリントを作成した。長期休業中は、学習者用 1 人 1 台タブレットを活用し、課題を配付したり、Navima の学習ツールを活用したりし、工夫した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・家庭学習を定着させるために、各教科の中で日々の課題を生徒に提示する。定期テスト前は、テスト範囲表や勉強の計画表を活用しながら、毎日の勉強を促す。また、懇談等を活用し、生徒の学びへの働きかけを、保護者からも行っていただけるよう促す。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-2・3） 教科の年間指導計画及びシラバスを作成し実践する。	B
指標	
・今年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等（72%）以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 70%で、目標を 2 ポイント下回った。	
【取組内容】について	
・予定通りシラバスを作成し、配付した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・シラバスに記載の年間指導計画の見直しを行い、計画通りに実施できているか等を教科会で確認する。また、日々の授業改善に努める。	
・公開授業期間に授業の指導案を作成する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（国語科）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市－2） 国語を適切に表現し、自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりを行う。		B
指標 ・今年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年 1.12、2年 1.09）より向上させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・令和6年度の3年中学生チャレンジテストについては、3年生は 1.12 で目標を達成した。		
【取組内容】について ・ICT 機器を活用した授業などを実施し、意欲的に取り組むことのできる授業づくりを行っている。長期休業中等の課題に Teams 配信や Navima を活用し、効率的に学習できた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・チャレンジテストにおいて目標達成できるような授業を、今後とも実施していく。		
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学－1・2） 計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。		B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 51％以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える児童（生徒）の割合を 58％以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・令和6年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 59％となり、昨年度より 1 ポイント上回った。		
【取組内容】について ・今後「文法」の分野や「創作活動」などにおいて習熟度別少人数授業を行っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・今後も生徒の理解が難しい分野を中心に、習熟度別少人数授業を行っていく。		
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1 学－3） 国語を学ぶ上で基礎基本となる語彙力を高め、言語を通した思考力を育成する。		B
指標 ・漢字能力検定試験を、希望者を対象に年に 1 回を目安に、校内で実施する。漢字学習の動機づけとするとともに、中学校配当漢字を網羅した漢字能力検定への取組を通じて、語彙力を向上させる。また、受検の有無に関わらず、語彙力を向上させ、「漢字を文や文章の中で使うことのできる力」を身につけさせる。 ・自分の考えを言語で表現できる授業展開を工夫し、学校生活アンケートで「授業終了まで授業に集中していた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、昨年度と同等以上（56％）にする。		

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を36%以上にする。 ・図書室の資料を利用した授業を全学年で実施する。資料等を活用し、自分の思考をまとめ、表現する方法を身につけさせる。また、ビブリオバトル大会の実施や本の紹介文を書くなどの取り組みを行い、読書活動の推進を図る。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合を前年度（46%）より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定を10月18日に実施した。受験予定者は88名であった。受験しない生徒も、Navimaを活用して漢字検定の級別学習を行った。 ・令和6年度の学校生活アンケートにおいて「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、もっとも肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は42%と、6ポイント上回った。「授業終了まで集中していた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は55%と、1ポイント下回った。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は55%と、1ポイント下回った。 ・図書館を活用した授業は今年約30回実施している。また読書活動を授業に取り入れ、文化発表会でビブリオバトルを実施した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定において多くの生徒が受験を希望し、合格できるよう Navima などタブレット端末を用いた取り組みを継続していく。 ・目標の数値を上回っていない項目もあるので話し合い活動などを中心に改善していく。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業終了まで授業に集中していた」の項目が目標を下回っているため、生徒の興味関心を高める授業づくりを行う。 ・国語科の教科性を活かして、漢字学習や読書活動により取り組めるよう改善していく。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（社会科）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市－2） 単元ごとの復習プリントを活用し、授業の内容を確認させ、さらなる学習理解をはかり、基礎的・基本的な学力の向上を図る。		B
指標 ・今年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3年1.06）より向上させる。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「社会の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を62%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 【年度目標】について ・令和6年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較した結果（3年1.06）と前年度と同じ結果となった。 【取組内容】について ・令和6年度の後期学校生活アンケートにおける「社会の学習に主体的に取り組んでいる。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は63%で目標を1ポイント上回った。		
次年度への改善点 【目標設定】について ・引き続き、基礎基本の定着と主体的に取り組めるよう授業改善を行っていく。		
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学－7） 国内だけでなく、国際社会に起こる社会的事象に対する興味・関心を高め、国際社会において生き抜く力を育成する。		B
指標 ・授業においては、社会事象に関する話題を取り上げ、また、定期テストにおいても時事問題を取り入れた設問を出題する。さらに、今年度の学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を57%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 【年度目標】について ・令和6年度後期学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は51%と目標を6ポイント下回った。 【取組内容】について ・授業内で社会事象に関する話題を取り上げ、定期テストでは時事問題として出題した。しかし、学年間での取り組みに差異があったため目標の割合を下回る結果となった。		
次年度への改善点 【目標設定】について ・今後指標の内容を変更し、改めて国際社会での社会事象に対する興味・関心を高める事ができるような工夫をしていく。		
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1、学－2） 調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を60%以上にする。		

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおいて「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度（46%）より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は70%と目標の10ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合は53%で、目標を7ポイント上回った。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を取り入れることによって、読解力・思考力・判断力・表現力を今後も身につけさせるよう、目標達成にむけて工夫していく。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（数学科）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（市－1・2） 基礎的・基本的な概念や知識の定着をめざすとともに、数学的活動を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。		B
指標 ・今年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3年1.16 2年1.11）より向上させる。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（46%）より増加させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・チャレンジテストについては、3年生は対府比1.19で、昨年度と同一母集団で比較すると0.03上回っている。 ・学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は53%で、昨年度より7ポイント上回っている。		
【取組内容】について ・学校生活アンケートにおいて、今年度前期からも4ポイント上回っており、授業中の話し合いなどの言語活動において、更なる改善が見られたと考えられる。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・引き続き、授業内での言語活動などを活発にしていくことで、新たな考え・学びを深められるように授業を展開していく。		

<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-1)</p> <p>計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。</p>	B
<p>指標 ・ 習熟度別少人数授業を通年で計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の学校生活アンケートにおける「数学の習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（50%）より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別少人数授業について、3年生については計画的に実施できている。 ・ 学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は53%で、昨年度より3ポイント上回っている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生については、習熟度別少人数授業を週3時間実施できたが、1、2年生については、定期的に行うことは難しいものの、どちらの学年も週1回TTを学年当初より通年で実施できており、よりきめ細やかな教科指導を行うことができた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年生で習熟度別少人数授業の定期的な実施は難しいが、授業内容の充実・改善に努め、TTでの授業形態をより効果的にできるよう計画していき、主体的・対話的な学習を意識して個々に授業でのアプローチを考えていきたい。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（理科）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市-2)</p> <p>自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりをおこなうとともに、演示実験やプリント教材を有効に活用し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を65%以上にする。 ・ 今年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（1.21）より向上させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジテストについては、3年生は対府比1.12で、昨年度と同一母集団で比較すると0.09下回っている。全体的に得点が伸び、前年度より学校平均点が10点上がり、度数分布も2つ山型が解消されたが、大阪府の平均が前年度から10点上がったことから1.21を上回ることが厳しかった。 ・ 学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は66%で、昨年度より1ポイント上回っている。 	

【取組内容】について	
・ 演示実験や生徒実験を行い、自主的、意欲的に理解を深められる時間をとることはできていると考える。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・ 進度の状況から、なかなか演習時間をとることが難しいため、プリント教材の問題を数問解く時間を今後確保し基礎的、基本的な学力の向上を目指す。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(市 - 1 学-2)	B
実験・観察を多く取り入れことにより、理科に対する興味・関心を高め、様々な自然現象について論理的に説明する能力を育成する。	
指標	
・ 今年度の学校生活アンケートにおける「理科の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 55%以上にする。	
・ 今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 60%以上にする。	
・ 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（46%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・ 今年度の学校生活アンケートにおける「理科の学習に主体的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 54%で、昨年度より 1 ポイント下回っている	
・ 今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 70%で、昨年度より 11 ポイント上回っている。	
・ 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は 53%で、前年度より 7 ポイント上回っている。	
【取組内容】について	
・ 実験・観察により、理科に対する興味・関心は高まっているが、それらを論理的に説明することが難しい生徒はまだ多いと感じる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・ 授業内での言語活動などを活発にしていくことで、考えを深められるように授業を展開し、それらを言語化できるような機会を増やしていく。また、言語化できたことを文章に表現することができるような場面を多く取り入れたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（音楽科）		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学-2） 基礎発声の継続的な練習と、感性を育て表現力を培うためのよりよい教材の精選、生徒の興味・関心を生かした意欲的な学習を行う。</div> <div>指標 ・学期に1回、歌唱もしくは器楽の実技テストを行い、表現活動における個々の次の目標設定に役立てる。 ・今年度学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を54%以上にする。</div>		A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について ・実技テストは1回以上行った。 ・「音楽の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は67%であり、目標より13ポイント上回った。</div> <div>【取組内容】について ・実技において、一斉活動だけでなく、グループでの活動も取り入れ、話し合いの中で多様な考えを引き出そうとした。ICT機器を用いた資料の提示、実技が苦手な生徒の補助(デジタル教科書の機能を使用。)を行った。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について ・普段の実技や各学年合唱コンクールの取り組みなどを通して、クラスの仲間と協力して一つのものをつくりあげることや表現することの喜びや楽しみを感じられるように、知識の習得だけでなく体験にも重きを置いて授業を行っていく。</div>		
<div>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1） 幅広い音楽分野の表現と鑑賞活動により、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、表現の創意工夫につなげていく。</div> <div>指標 ・全学年とも学期に一回鑑賞を行う。 ・今年度学校生活アンケートにおける「集中して音楽を聴くことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度（49%）より増加させる。</div>		A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について ・各学年、1度以上鑑賞を行った。 ・「集中して音楽を聴くことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は73%であり、目標値を23ポイント上回った。</div> <div>【取組内容】について ・話し合いの中で多様な考えを認め合えるように、班やグループでの活動を取り入れた。また、ICT機器を用いた資料の提示などを行った。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について ・音楽を集中して聴くこととそこから自分の感じたことや考えたことを言語化すること、そしてそれを共有して考えを深め合う活動を、できる限り行っていく。</div>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（美術科）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学―2） 発想力を豊かにし、知識・技能の向上に努め、意欲的に表現活動に取り組む態度を育てるため、取組内容や教材を精選する。		B
指標 ・すべての題材で言語活動の充実を図り、振り返り用のプリントを利用して学習内容の定着を図る。 ・今年度末における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、全体の 55%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・すべての題材で振り返り用の感想カードを利用したり、アイデアを出す過程を絵と言語で表現したりして、作品制作における言語活動の充実と学習内容の定着を図る。 【取組内容】について ・課題により、調べ学習や作品の鑑賞などに学習端末を活用するなどし、生徒たちが作品制作する助けとなるよう取り組みを進めてゆく。 ・令和 6 年度前期における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は 67%で、目標値を 12 ポイント上回ることができた。 ・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 70%であり、目標値を 1 %下回った。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・学年によってばらつきがあるが、引き続き授業改善を図り、より興味関心を引き出す授業展開を工夫する。		
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-1） 造形的なよさや美しさ、素材の生かし方、作者の心情や意図と造形的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう力を養うため、鑑賞活動の充実を図る。		B
指標 ・各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期各 1 回ずつ行う。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、51%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・令和 6 年度の後期学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は 53%で、目標値を 2 ポイント上回った。また学年によって肯定的な回答が増えてゆくことから、今後も同様に指導してゆく。 【取組内容】について ・各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期 1 回ずつ行った。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・鑑賞活動を主とした単元について、計画通り取り組むことができた。 ・話し合い活動を効果的に取り入れ、学びの実感につながるよう指導方法を工夫する。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（保健体育科）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（学－8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、男女共修での集団育成を重点的に行い、授業規律の確立、授業への意識の向上を図る中で授業効率を高め、運動量の確保に取り組む。 ・教科書やワークシートで知識の理解を深め、体育館に設置された ICT 機器を最大限に活用し、視覚的にもわかりやすい授業展開を図る。 <hr/> <p>指標 ・今年度校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、今年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、今年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、AB-DE の数値を全国平均以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を60%以上にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均以上にする目標については、男子で0.89ポイント・女子で2.32ポイント下回った。内訳としては男子では8種目中4種目で全国平均を上回ったが、握力・上体起こし・ハンドボール投げで大きく下回り総合点を押し下げる事となった。女子については8種目中2種目が全国平均を上回った。握力・長座体前屈・ハンドボール投げが大きく下回った。 ・上記の段階別総合評価（A～E）のうち、AB-DE の全国平均男子で3.8であったのに対し本校男子はマイナス2で下回り、全国平均女子が33.9であったのに対し本校女子は28.9で下回っていた。 ・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的に取り組んでいる」の項目について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は69%で目標を9ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団育成を重点的に行い、授業規律を確立できた。また、授業効率を高めたことによって、運動量の確保に取り組んでいる。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動を目標に、授業計画や実践に努めている。その成果もあり、保健体育の授業に積極的に参加する環境が整いつつある。しかしながら体育（運動）を苦手とする生徒へのアプローチには課題が残っている。様々な生徒が、運動への興味関心を高めることができるよう、ICT 機器も用いながら工夫改善を図る。ただ、クラス数の増加に伴い、授業の重なりが発生し活動場所が制限される事態が発生している。カリキュラムを見直すとともにグラウンドで複数クラスが球技を行える環境を整えていきたい。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（市－4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施に向けて、昨年度の結果を再掲示するとともに自己の昨年の記録をもとに今年の目標を設定させることで、意欲的に体力テストに臨む姿勢を育てる。 ・体力テスト実施後の結果について、一昨年度の全国・大阪府と比較分析したものを掲示し、自己の記録との比較を通して、課題を見つけさせるなど、生徒の意識向上を図る。 	C

<p>指標 ・今年度に校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、今年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、ABの割合を男子30%以上、女子40%以上にする。</p> <p>・今年度に校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、今年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、DEの割合を男子30%以下、女子20%以下にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）のうち、ABの割合は男子36.1%で1.1%上回り、女子48.8%で16.2%下回った。 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）のうち、DEの割合は男子38.1%で13.1%下回り、女子20.7%で5.7%下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の結果を上回るよう目標設定をして取り組んだ。また、掲示物を活用して記録の向上に役立てた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎授業でランニング、柔軟運動、補強運動を取り入れた授業を実践する。また、單元ごとに必要なからだづくり運動、神経系の準備運動を取り入れ、様々な体力の要素を高める。 	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】（学-8）</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力テスト・体育大会・マラソン大会・球技大会を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場として位置づけ、体育委員会を中心とした主体的活動に取り組む。 体育大会実行委員会活動や縦割り活動を積極的に行い、学年間の交流を深め、主体的に行事や授業に取り組ませることで効果的な伝承を図る。 	
<p>指標 ・今年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を55%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度後期学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を58%以上にする。 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を50%以上にする。 体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動を本年度も年間を通して実施し、主体的に運動に親しむ機会を設ける。 夏休みの水泳指導を実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合は男子66.1%で11%上回り、女子34.9%で20.1%下回った。 学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は60%で目標を2ポイント上回った。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度後期の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は53%で目標を3ポイント上回った。 ・体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動は年間を通して実施している。 ・夏休みの水泳指導は3日間にかけて学年ごとに時間帯を分け実施した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会では、今年度より名称変更を行い体育委員会として主体的に取り組むことができた。 ・体育委員会の活動のなかで、早朝より東中ソーラン節に取り組み、体育大会当日全校生徒・保護者の前で披露することができた。
次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動が、体育大会や行事という期間限定の活動にならないようにする。また、日ごろから体育委員を中心とした共同学習を取り入れた授業展開を図る。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（技術・家庭科）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（学-5） ICT機器を活用した学習活動を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・今年度の学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合について、全体の55%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の後期学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は51%で目標を4ポイント下回っているが、前期より5ポイント上がった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の後期学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は65%で目標を6ポイント下回った。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室での座学が多く、ICT機器を多用して授業展開は図れたが、アンケート後に実習実施となり数値に表れていると思われる。実習等で基礎的な知識や基本的な技術を身につけさせることができた。来年度以降も生徒一人一人に丁寧な実習指導を心掛けて授業を展開していきたい。 	

<p>取組内容②【基本的な方向 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1 学-2)</p> <p>工夫し創造する能力の育成をねらい、言語活動を取り入れた授業実践を行う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3カ年の指導計画を見通しながら、各領域で少なくとも1回は言語活動を取り入れた授業実践を行う。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を、前年度(46%)より増加させる。 	B
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は70%で目標より1ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の後期学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は53%で目標を7ポイント上回った。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を取り入れた授業実践はできているが、十分な時間を確保でききれなかったことが来年度への課題として挙げられる。3年生は特に時間数を確保して取り組んだが週1時間の授業では難しいところもある。今後も言語活動のさらなる充実に努め、思考力・判断力・読解力の向上を図りたい。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】(学-6)</p> <p>技術分野の学習において、論理的思考を促す授業展開を行う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートで「技術家庭科(技術分野)の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を57%以上にする。 	A
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートで「技術家庭科(技術分野)の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は66%で目標を9ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に同じ 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングは2年生の2学期から学習しているため現3年生の割合のみとなっている。小学校で学んだことがらを踏まえ、ステップアップできるように、また高校の情報Ⅰで学ぶ学習へとつなげていけるよう内容を精査しながら進めていきたい。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（英語科）		進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-3） 英語での表現活動を多く取り入れることにより、表現力を育成する。		A
指標 ・今年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年 1.16、2年 1.14）より向上させる。 ・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 76%以上にする。（昨年度 76%）		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・チャレンジテストについて 2年生の結果はまだ出ていないが、3年生は（1.16）と昨年と同じ対府比が出た。 ・CEFR に関して 3年生の GTEC の結果から、CFER A1 レベル相当の3年生の割合（4技能）は 82.9%と高い数値が出た。日々の授業の積み重ねに加え重点的に取り組んだ writing の取り組みが功を奏したと考えられる。引き続き指導法を共有し学校全体として高いレベルを保っていきたい。 【取組内容】について ・各学年スピーチ等に取り組むことで、英語での表現活動に多く取り組んだ。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・GTEC に関してさらに高い目標設定にするか、どのあたりを上限とするかを今後英語科で相談していきたい。		
取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学-1） 個に応じた指導方法を工夫し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。		B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「ティームティーチングの授業や習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 51%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・後期生徒アンケートにおける「ティームティーチング」に関する項目は 54%と目標を上回った。 【取組内容】について ・2学期以降英検対策・チャレンジ対策・文法対策などのテーマに基づき、それぞれの学年で習熟度別少人数授業を行うことができた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・今後も年間を通して学年ごとに行いやすい時期を考慮し、テーマに基づいた習熟度別少人数授業及びティームティーチングを継続していく。		

<p>取組内容③ 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（市-3 学-4）</p> <p>英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を前年度(46%)より増加させる。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 51%以上にする。 ・C-NET(大阪市外国人英語指導員)の授業を、各学級あたり年間で 15 時間程度実施する。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期生徒アンケートにおける「話し合い活動」に関する項目は 53%と、目標を上回った。 ・後期生徒アンケートにおける「アクティビティ」に関する項目は 57%と、目標を上回った。 ・C-NET の授業は 1 月末現在、例年同様に各学年 11 回程度行えている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は話し合い活動に関して積極的に取り組んでいると感じている生徒が多く、このままの活動を継続していく。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在前向きに取り組んでいる生徒の良さを認め、間違いを怖れず英語で意見を伝えていくことの価値を伝えることで、英語に苦手意識のある生徒も巻き込んでさらに向上させていきたい。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（健康教育部）		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（学-9） 生涯にわたり健康な心身を保持増進できるように、生活習慣や自己管理能力を身につけさせる。		C
指標 ・保健指導（保健だより・健康教室の開催など）を各学期に1回、定期的に行う。 ・ポスター掲示、プリントの配布などを通して、啓発活動を行う。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を73%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・生徒アンケート結果は、昨年度より-5ポイントの67%だった。		
【取組内容】について ・保健だより」等のプリント配布や、ポスター掲示を通して健康に関する啓発を行っている。 ・各教室においても、換気を行い消毒液も設置して健康的な生活の維持に努めている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着きはじめ、気のゆるみが感じられる。今後も、手洗い、うがい、換気、消毒などの取り組みを継続して進めていく。		
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（学-10） 望ましい食生活を身につけさせ、「食」への意識を向上させる。		B
指標 ・月1回の『食育だより』を通じて、生徒や保護者に「健康や体力を保持増進する力」を育成する。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を46%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・生徒アンケートの結果は、昨年度より-1ポイントの44%だった。		
【取組内容】について ・食育だより」を月1回のペースで発行している。 ・1年生では昨年度に引き続き、2学期に食育の内容で授業を行った。 ・保健の授業では、「食生活と健康」、「生活習慣病の予防」の単元で指導を行った。 ・給食時に、給食係に「今日の献立」を発表させるなどして「食」への意識を働きかけた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・今後も、上記の内容を継続して行っていきたい。 ・給食時間は限られた時間ではあるが、食事の準備から片付けも含めて食事の時間を大切にできるように生徒に働きかけていく。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（給食運営委員会）	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】（学-10） ・「食に関する指導の全体計画」を策定し、学校全体で食育に取り組む。	A
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「給食は残さず食べている」という項目に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 35%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・生徒アンケート結果は 73%と、中間評価より+2%であった。 【取組内容】 ・残食調べのグラフ作成や給食についての掲示を行っている。 ・給食の配膳の見本を給食のラックに掲示している。 ・給食係によって給食カレンダーを読み上げや、給食週間での取り組みを行っている。 ・食に関する指導を行った。（1年生）	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・引き続き上記による取り組みを継続し、学校生活アンケートにおける「給食は残さず食べている」という項目に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を現状維持・向上していきたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（人権道德委員会）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 2 豊かな心の育成】（学一7）</p> <p>基本的な道德指導や人権尊重の姿勢について教職員が理解を深められるように、研修等の情報提供を行う。また、帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒についての情報共有や支援を適宜行い、違いを尊重し認め合える教育活動を展開していく。</p> <p>指標 ・人権教育実践交流会、道德学習会の参加を呼び掛ける。また、人権道德関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行う。</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 67%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>・今年度の学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 77%で目標を 10 ポイント上回った。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>・人権道德関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行っている。また、今年度は本校で人権教育実践交流会を開催した。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>・帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、違いを尊重し、お互いを認め合えるようなに教育活動を行うとともに、引き続き、道德・人権学習教材の情報提供を積極的に行っていきたい。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（校長経営戦略支援予算基本）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】（学一2）</p> <p>「地域探訪」と銘打った班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れながら郷土大阪を愛する心を育み、地域社会へ貢献する態度と意識を養う。また、事前活動や当日の活動では、地域の歴史や伝統文化について班で調べ、体験した内容を様々なスタイルを用いてプレゼンテーションすることで、総合的読解力の醸成とともに学力向上とをねらう。</p> <hr/> <p>指標 ・他者や社会との関係だけではなく自己と対話をしながら自らの考えを深め、地域という自分自身の基盤の中で行動していくきっかけとするべく、班別フィールドワークを実施する。</p> <p>・課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、多様な観点から考察するために、ICT 機器を利用した調べ学習などを行う。この活動を通して、今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を72%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【達成状況】について</p> <p>・学校生活アンケート結果より</p> <p style="text-align: center;">目標 72 R6 後 65 R6 前 70 R5 後 62 R5 前 57</p> <p>目標を達成することはできず、また前期から数値の伸長を図ることができなかった。昨年度後期と比較すると3ポイント改善することができたため、この流れを途切れさせることなく、次年度に引き継いでいく必要がある。</p> <p>【結果と分析】について</p> <p>・自動採点システムは教職員間で根付き、学びのポータルによる心の天気やデジタル教科書、デジタルドリルといった、ソフト面での環境整備は整いつつある。また、ハード面では通信改良が年度を通して数回の改善が図られ、3学期に2年生で実施した全国学力学習状況調査の理科 CBT テストの試験実施においても通信面での問題はほぼなくなった。一方で、学習端末に故障が多いこと、画面が小さいこと、重いことなど一朝一夕には改善できない部分もある。今後は、端末の効果的な活用事例を紹介し、教職員間で、説明しやすい環境を整える必要がある。</p>	
次年度への改善点	
<p>・「結果と分析」の部分に記載したように、活用環境は改善しつつある。今後は、授業での活用に向け、効果的な活用事例の紹介をしつつ、研修等では実際に使用し、実感できるような機会を設けていく。</p>	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>1. 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超える。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（教育DXの推進）</p> <p>2. 教員の勤務時間の上限に関する基準（基準2）を満たす教職員の割合（%）を47%以上にする。【本市独自調査】（人材の確保・育成としなやかな組織づくり）</p> <p>3. ICT の活用に関する目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を71%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上にする。 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を57%以上にする。 <p>4. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。 ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準2）を満たす教員の割合を30%以上にする。 ・令和7年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（ICT教育推進部）		進捗状況
<div>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】（市-1） 個別最適な学びの推進に向けて、1人1台端末を活用した学習活動を実践する。あわせて、ICT機器の整備と効率的な運用を図る。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする。・今年度の学校生活アンケートにおける「1人1台端末を用いて、毎日心の天気の入力を行ったり、もしくは授業などで端末を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合を65%以上にする。</div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は65%で、目標を5ポイント下回った。・今年度の学校生活アンケートにおける「1人1台端末を用いて、毎日心の天気の入力を行ったり、もしくは授業などで端末を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答えた生徒の割合は77%で、目標を12ポイント上回った。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・生徒用学習端末や校内のICT機器を活用した研究授業を行い、デジタルドリルの教員研修会も実施した。修学旅行のまとめや各教科の学習活動で生徒が学習端末を利用している。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・相談機能や心の天気の入力を通して、生徒の心の内面や状況の把握に努めていく。また、デジタルドリルの活用を通して個別学習の推進を図る。そのためにドリルの課題設定や発表機能の活用などを浸透させる。</div>		
<div>取組内容②【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】（市-1） 情報活用能力の育成に向けて、情報を正しく安全に利用できるように情報モラル教育について取り組む。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">・今年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を73%以上にする。</div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・校内の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合は71%であった。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・道徳の授業や学活等で適宜、情報モラルに関する指導を行った。9月にはSNSに関する誹謗中傷について取り上げた話題を提供し、インターネットの使用について大切なことを考える時間を設けた。さらには情報モラル啓発標語の作成を行い、文化発表会では優秀作品の表彰を行った。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・目標から2ポイント下回ったため、今年度の取り組みを継続していく。SNSの利用についても様々な具体的な場面で考えさせ、生徒の実態に応じた指導を工夫していく。</div>		

取組内容③【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）（市-1） 子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現するため、心の天気・いじめアンケートなどを活用する。	B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ発見や、不登校などの生徒に対して ICT を活用して支援している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・校内の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ発見や、不登校などの生徒に対して ICT を活用して支援している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は 65%で、目標を 5 ポイント下回った。 【取組内容】について ・いじめアンケートはアンケート機能を用いて学習端末で 2 回実施している。また、心の天気の入力とスクールライフノートの相談機能を活用し、オンラインによる授業配信も行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・子どもの理解を深めるために、心の天気の継続的な取り組みを行っていく。登校した生徒全員が心の天気の入力ができる教職員の体制を作る。	
取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（市-1） 学校ホームページや保護者メールなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。	B
指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどで知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 60%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・校内の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどで知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合は 55%で、目標を 5 ポイント下回った。 【取組内容】について ・各学年の取り組みや行事などは随時ホームページで更新されている。保護者に学校行事の様子や授業風景は日々提供されている。また、保護者に必要な進路情報や学校行事に関する連絡もメールで提供している。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・保護者にとって適切でわかりやすい情報提供を行うため、ミマモルメ（アプリ）の活用やホームページの更新を工夫していく。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（管理職）	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（市-1） 学校ホームページや保護者メールなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。（再掲）</p> <hr/> <p>指標 ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 58%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【達成状況】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート結果より 目標 5 8 R6 後 5 5 R6 前 5 8 R5 後 5 5 R5 前 5 9 目標を達成することはできなかった。また、昨年度同様、前期の結果から減少が見られた。一方で、前年度からの減少はなかった。肯定的回答全体でも、昨年度後期が 96%、今年度後期は 97%と、非常に高い水準を保ち続けている。 <p>【結果と分析】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日欠かさず、給食や授業の様子が掲載されており、最近では、動画が掲載されることもありホームページは充実している。修学旅行や体育大会といった学校行事では、1 日当たり 10 件を超える記事がアップロードされている。しかしながら、昨年末のサーバー切り替えを境にして、閲覧数が微減している。ホームページのニーズを掘り起こしていくことが数値の改善につながると考えられる。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 行事や部活動について教職員の協力があり、記事の掲載量は非常に充実している。今後は、この質、量を保ちながら、生徒保護者が必要とする情報を盛り込んでいくことが改善の一つの策ではないかと考えている。例えば、時間割や持ち物の連絡など、忘れては困る情報を掲載することも盛り込みたいと考えている。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（市-2） 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。 大阪市が策定した「学校園における働き方改革推進プラン」に則って、学校現場の負担軽減に向けた様々な取組を推進する。</p> <hr/> <p>指標 ・4～11 月の 8 か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準 2）を満たす教員の割合を 44%以上にする。 ・今年度の 4 月～11 月まで の 8 か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv 4（100 時間超）の数を前年度より半減させるとともに、Lv 3（80～100 時間）、4 の月をこえる教員の割合を 10%以下にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【達成状況】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革プラン基準 2 は以下のような指標である。達成数値は改善傾向にあり、11 月時点で基準 2 を達成した教職員の割合は、昨年度と比較し、3 ポイントの向上がみられた。かつ全体としても 44%を超えるという目標を達成することができた。 <p>（参考 基準 2）</p> <p>ア 1 年間の時間外勤務が 720 時間を超えない イ 1 か月の時間外勤務が 45 時間を超える月を年間 6 回までとする ウ 1 か月の時間外勤務が 100 時間を超えない エ 連続する複数月（2. 3. 4. 5. 6 か月）のそれぞれの期間において、時間外勤務が平均 80 時間を超えない。</p> <p>※基準 2 とはアイウエをすべて満たす教員 R6 後 27/48 人（60. 42%） ※R5 57. 45%</p>	

- ・LV 4（月あたり 100 時間超）を超える教員の数は、昨年度とのべ数を比較すると半減させることができた。4 月から 12 月までの 8 か月の平均した勤務時間数が LV 3（月当たり 80 時間超）、4 をを超える教員の割合は 4.1%となり、目標を達成できた。

(のべ) LV 4 教員…昨年度 8 人 R6 3 人 ※参考 LV 3 昨年度 4 9 人 R6 4 4 人

(割合) LV 4 教員…昨年度 0 人 R6 0 人 ※参考 LV 3 昨年度 2 人 R6 2 人

LV 4 がある教員の数 R6 後 … 4/49 人 (8.1%) R5 後 … 6/47 人 (12.8%)

LV 3、4 超える教員 R6 後 … 2/49 人 (4.1%) R5 後 … 2/47 人 (4.3%)

【結果と分析】について

- ・12 月までの結果ではあるが、好ましい内容であった。しかしながら、基準 2 を満たす教員の割合は減少しつつあるため、働き方改革としてはいまだ道半ばといえる。LV 4 を超える教員ののべ数は半減したものの、100 時間を超える超過勤務時間を計上する教員（LV 4）が 3 名いるという状況は、早急に改善が必要といえる。同時に、月平均で 80 時間を超える教員も昨年同様 2 名いるところも早急に業務の平準化を図る必要がある。

次年度への改善点

- ・全体として、少しずつではあるが、働き方改革が進み、教員の超過勤務時間数が減少傾向にある。この流れを維持し、さらにはより進めていくためには、サポーターやボランティアの活用をさらに進めて業務の平準化を図ること、および、テストの採点だけでなく、作問自体にも業務改善が必要と考える。さらに本校においても部活動の大会が開催される期間に超過勤務が多く発生していることを考えると、教職員の「働きがい」をなくさないようにしていきながら、部活動指導員のさらなる導入により、削減できる時間数を増やしていくことを求めている。

大阪市立東中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 1. 今年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を52%以上にする。 2. 今年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を42%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学-1) 学校目標や今日的課題を含めた諸課題に基づき、各種の校内研修会を実施する。よりよい教育方法の研究に努め、教育活動実践上の様々な課題について研修を深める。 ----- 指標 ・学校目標や今日的課題を含めた諸課題に係る研修を学期に1回実施する。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を52%以上にする。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は63%で、目標を11ポイント上回った。 【取組内容】について ・4月には生活指導研修会、7月にはスクールライフノート等のICT研修、8月には救急救命講習、9月にはゲートキーパー研修の伝達、能登震災教育ボランティアの報告、10月には自殺予防研修、12月にはマイクロアグレッションの研修、1月にはストレスコーピングの研修を行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・研究授業時の研究協議も含め、今後も研修を行う。	
取組内容②【基本的な方向5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-1) 公開授業週間を設けて、他教科の授業見学も行い、全教員が互いの指導力向上をめざして研鑽を積む。 ----- 指標 ・公開授業週間を年1回実施し、全教職員が行う。 ・公開授業の見学参加者数を全教職員、2回は公開及び見学するものとする。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業方法についての意見交換し、指導内容・指導方法についての意見交換や話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を昨年度と同等（56%）以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業期間内に、全教職員が公開授業を行った。また、2回の見学も行った。 ・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて「教員間で授業方法についての意見交換し、指導内容・指導方法についての意見交換や話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は63%で、目標を7ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月24日から10月25日に公開授業を行えた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降も、公開授業の期間を設ける。 	
<p>取組内容③【基本的な方向3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-2)</p> <p>小中の交流を深めるために、小中合同で研修会などを実施する。また、小中学校での相互授業参観や授業研究を実施することで、生活指導や学習指導方法の改善に役立てる。</p> <hr/> <p>指標 ・小中連携担当者会議を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での相互授業参観や授業研究を実施する。 ・今年度の学校生活アンケートにおいて「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を42%以上にする。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携担当者会議を、4月25日、7月17日、12月19日の3回行った。また、3月19日にも実施予定である。 ・令和6年度の後期学校生活アンケートにおいて「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合は63%で、目標を21ポイント上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学1年生に関する小中連絡会を5月14日に行った。 ・小中連携の一環として、小学6年生を対象にTeams配信の体験授業を6月19日に行った。 ・生徒会、ESS部員による学校紹介を11月22日に中大江小と開平小で行った。2月28日に南大江小と玉造小で実施予定である。 ・来年度入学予定の小学6年生に関する小中連絡会を、2月10日に玉造小、2月20日に開平小、2月21日に南大江小、2月26日に南大江小で実施予定である。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も、現行の小中連携を続ける。 	